

(氏名) 矢野 修一	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>◇研究論文： 「グローバル・サウスという『問い』に世界経済論はどう向き合うかーグローバル・ヒストリーとの協奏」『国際経済』第 76 巻、日本国際経済学会、1-30 頁。</p> <p>◇編著： 『地方消滅からの脱却ー持続可能な地域をめざして』日本経済評論社、2025 年；序章・第 1 章の執筆ならびに全体の校閲・編集。</p> <p>◇学術シンポジウム： 明治大学大学院商学研究科セミナー「グローバルサウスと現代世界」で西谷修・工藤律子・所康弘の各氏とともに登壇・報告（2024 年 10 月 19 日、明治大学グローバルフロント・グローバルホール）</p> <p>◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導： 日本企業のケーススタディを柱とし、2010 年度から 15 年間続く「高大コラボゼミ」を企画し、各種指導を行った。経営支援 NPO クラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生によるソニーグループ、パイロットコーポレーション、三井化学、明電舎、JFE 商事、スマートキャンパ各社の研究をサポートし、本社訪問と成果発表会（高経大 731 教室、8 月 22 日）につなげた。</p> <p>◇『高大コラボゼミ 2024 年度成果報告書』の編集補助： 2024 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。報告書は、高崎市議会議員を含め、関係各方面に配布された。</p> <p>◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第 32 号（2025 年 3 月刊）の監修および編集： 1994 年 3 月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2024 年度も卒業論文の執筆を指導し、280 頁を超える卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。</p>	
2 その他の事項	
<p>◇高校生向け講演・講義等： * 高崎市立高崎経済大学附属高校 1 学年生徒全員に向けて、「高校時代の過ごし方～3 年なんて、あっという間」と題する講演を行った（4 月 15 日、高経附） * 樹徳高校 2 年生向けに「世界は誰かの仕事でできている～課題設定に向けた『気づき』の重要性」と題する出前講義を行った（5 月 1 日、樹徳高校） * 高崎市立高崎経済大学附属高校 2 学年生徒全員に向けて、「あれから、何年？～近現代史の素養」と題する講演を行った（1 月 14 日、高経附） * 新年度 3 年文系オナークラス生向けに、高大コラボゼミのオリエンテーションを行った（3 月 17 日、高経附）。</p> <p>◇学部ゼミ生向け就活サポート事業： 19 年続く、卒業生による恒例の就活サポート事業（エントリーシート作成指導や模擬面接など）を対面で開催した（2 月 21 日、東京・神田）。</p> <p>◇群馬県立前橋女子高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員： 運営指導委員会、SSH ポスター発表会などに参加し、他の運営指導委員とともに指導・助言を行うとともに、高校教員を交え意見交換を行った。</p>	

◇ポシビリズム研究会主宰：

1998年から続くポシビリズム研究会（ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする）の開催はできなかったが、メンバーの協力を得ながら、大学院進学希望の学部ゼミ生を学会（社会文化学会全国大会）やセミナーに引率したり、全国の大学に在籍する卒業生とは次年度のプロジェクトについてメール審議を行ったりした。

3 次年度以降の計画・抱負

いよいよ、高崎経済大学の専任教員として最後の年を迎える。

教育面では、充実したゼミ活動を中心に、次世代を担う若者に向けて「3つの出会い」（「人との出会い」「ものの見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」）の場を今年も提供し続ける。

研究面では、自らの研究をまとめるとともに、ポシビリズム研究会メンバーとの共同研究（『現代社会経済システム論—持続可能性の探求』）を出版（書名は仮題）する予定である。